



全ての基本

学級日誌を見ていると、「眠かった」とか「寝ている人がチラホラ…」とかいった記述がよく出てくる。まあ、若い君たちが眠くなるのはよく分かるのだが、これはキツパリ改善すべき点だと思う。

まず、新しいことを学ぶ際、それに自分一人で取り組むのと、誰かから教えてもらいながら取り組むのでは、明らかに後者の方が効率がイイし、深い内容にまで達しそうだということは想像がつくに違いない。つまり、寝ていた部分を後から自分で取り戻そうとしても、そこには明らかに質の低下が伴うということなのである。頭をスッキリさせて、キツパリと授業を受けることが大切な理由は、まず第一にそこにある。

次に、ちょうど来年の今ごろを想像してほしいのだが、3年生の文系の諸君は地歴・公民の勉強に、理系の諸君は理科の勉強に時間が取られることになる。この部分をしっかり強化しないと、君たちが志望するレベルの大学では、全国のトップレベルの諸君および浪人生の諸君と合格を競うことが難しくなるからだ。同時に、この地歴・公民、理科に部分に「伸びしろ」が残っているわけで、それを有効に活用するためにも、時間が必要になるのである。

ところが、そうかといって国数英をおろそかにして、その部分の力が低下してしまうようでは、これまた合格がおぼつかなくなる。理社に時間をかけなければならないが、同時に国数英の力も落とせない…時間が限られるなかでこの二律背反の状況に挑むことになるわけだが、現役生にとって最も効率的で有効な解決策は、国数英に関しては「必修の授業

を徹底的に活用する」ということなのである。もちろん、我々教員もそのことを承知しているから、この時期の国数英の授業には実践的な内容を取り入れる工夫をしている。例えば、私の担当している文系必選古典Bでは、教科書を進めると同時に、その教材を生かした入試問題の演習などを取り入れている。

つまり、今の君たち以上に眠そうな来年の君たちは、「眠かった」などと言っている場合ではないのである。授業をしっかりと生かしかれた人が、理社の力を伸ばしながら、最終的な志望校の合格をゲットすることになるのであって、予備校でも居眠りし、学校でも居眠りし…では、第一志望レベルの合格はおぼつかないことを肝に銘じるべきである。

というわけで、規則正しい生活、つまり、家でシッカリ睡眠をとって、学校ではクリアな頭を働かせられるような生活をしなければならない。その規則正しい生活の習慣を、今からつけていくことが大切なのである。

*

同じ日比谷にいて、同じ授業を受け、同じように部活をしたり行事をがんばったりしているのに、合否の差が出るのは、決して「頭」の差ではない（その証拠に、学年最下位だった人が一浪して東大に入ったりする）。ひとえに「自分の生活を律することができたかどうか」にかかっているのである。学習時間を自分でコントロールできるのか、スマホ（ライン）やゲームの時間を自分でコントロールできるのか、寝る時間・起きる時間を自分でコントロールできるのか、そんな基本的なことに「開けゴマ！」があるのである。